

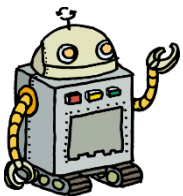
神奈川県青少年科学体験活動 推進協議会 NEWS 第181号

令和2年10月23日発行
事務局：県立青少年センター
科学部 科学支援課
電話：046-222-6370

感染症対策を行いつつ科学体験支援を再開

感染症の影響がまだまだ大きい状況ですが、県内の様々な施設や団体が、感染症対策を行いながら子ども達の体験活動を再開し始めています。神奈川県青少年科学体験活動推進協議会会員は、様々な工夫と対策を行いながら体験活動を再開したり、活動再開に向けて準備を進めたりしています。協議会事務局の県立青少年センター科学部も、8月までに多くの講座・イベントを中止していましたが、9月からやっと事業を再開することができました。

協議会の協力で開催している「中高生サイエンスキャリアプログラム」「青少年のための科学の祭典神奈川県大会」「青少年のためのロボフェスタ」は残念ながら中止となりましたが、「子ども科学探検隊」は9月・10月に一部の会場で開催することができましたので、今号で今年度最初の青少年科学体験活動を報告させていただきます。



子ども科学探検隊

例年は3コースを設定し、5月から10月にかけてコースごとに複数の大

学や科学館・動物園などを巡っていましたが、今年は3カ所のみで開催となりました。

密を避けるための定員削減、受付時の検温、マスク着用、手指消毒の徹底と、会場の皆様の様々な協力により、久しぶりの子ども達の笑顔と接することができました。

青少年センター科学部が今年度開催した一番初めの事業が9月5日の子ども科学探検隊でした。

麻布大学での探検隊は今年が2度目です。感染症対策のため定員を6名に減らし、昨年実施した羊肉の試食も中止になりましたが、クイズ形式の学習や、大学生の皆さんの協力で、楽しく興味深い探検ができました。また、子ども達の探検中に保護者の方々が待機する場所も用意していただきました。

9月5日(土) 麻布大学 羊についていろんな観点で学びました。
終了後は獣医学部付属の命の博物館を自由見学させていただきました。

羊について学習

羊の祖先が暮らしている地域はどこでしょうか？

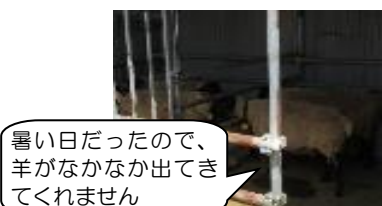


羊とふれ合う前にまずは、学習。クイズ形式で、楽しく学ぶことができました。

羊とふれ合い



普段、羊の世話をしている大学生のみなさんが、案内してくれました。



暑い日だったので、羊がなかなか出てきてくれません

羊毛の使い道

羊毛には色々な使い道があります。



麻布大学の学生さんに教えてもらって、羊毛フェルトでマスコットを作りました。



はまぎん ども宇宙科学館での探検隊は、当初予定していた特別ツアーの内容を一部縮小して、科学工作の時間を設定して開催しました。

9月12日(土) はまぎん ども宇宙科学館 子ども科学探検隊だからこそこの特別プログラムでした

科学館内特別ツアー



科学館の管制室で館内の状況を説明を伺ってから館内を巡りました。



万が一の時に自家発電を行うための部屋を見学



残念ながら撮影は禁止でしたが、プラネタリウムの裏側を見せていただきました。

普段は見ることのできない場所を巡る特別ツアーは、引率する職員もワクワクする体験でした。

科学工作&クイズ



「わくわくワークショップ 科学工作教室」でも人気の「星空まんげきょう」を作りました。



鏡を立方体に組み立てて作った万華鏡をのぞくと、星空のような光の模様が楽しめます。



最後はクイズ大会で締めくくりました。参加者が少なくともみんなが積極的に答えて盛り上がりました。

伊勢原市立子ども科学館は、館内の換気・消毒のため正午～午後1時まで一時休館する対策をとっているため、最初に予定していた館内自由見学を中止にして、時間を短縮して開催しました。

10月3日(土) 伊勢原市立子ども科学館 プラネタリウム見学と工作を行いました

工作(七宝焼き体験)



最初に裏側に釉薬を塗って、冷めるときに割れないようにしてから、表に自分の好きな色の釉薬を盛って、ミルフィオリ等の装飾を並べて置きます。

ストップウォッチを片手に、自分の作品が焼きあがるのを待ちます。



小さな作品でしたが、みんな大満足でした。「なぜ「七宝焼き」というかわかった」「裏に釉薬を塗る理由を知ったりできておもしろかった」という感想もありました。

プラネタリウム見学



10月3日の星空の解説と火星接近にちなんだ番組を見学しました。「火星のことに興味が出てきました」「今日の星空を見ようと思った」という声があがっていました。

短い夏休みの間に募集をしたのですが、青少年センターの事業が中止となっていたこともあって、3回とも5、6人という少人数の応募となりましたが、感染症対策としては十分な対人距離を保って体験してもらえました。来年度には、もっと多くの子ども達にいつものように多くの施設を探検できるように、準備を進めていきます。

事務局から

いつもとちがう状況の中で、子ども達を感染症から守りながら行う体験活動には、準備の苦労もいつも以上です。でも、やっぱり子ども達が楽しそうに活動する顔を見て、書いてくれたアンケートを読んで、やってよかった・・・次も頑張ろう！と思えます。事務局だけでなく、協議会員の誰もが子ども達のために考え、行動しています。ともに頑張っていきましょう。(事務局:千葉、秋田谷、山田)

